

日本における選手強化に関する提案

(日本ゴルフサミット会議 資料)

アジアで最強と言われる韓国では、年間 5 億円の強化費を準備し、年間 200 日以上合宿してトレーニングをしていると言われていたが、日本ゴルフ協会の強化費は、ナショナルチームメンバーの強化を中心に年間 5,000 万円程度の予算に限られ、年数回の合宿を行うにとどまっている。

日本から世界で活躍できる選手を創出するためには、小中学生へのゴルフの普及、将来有望な選手の発掘・育成、ナショナルチームメンバーからオリンピック強化指定選手に至る一貫した強化システムが必要であり、そのためにはそれなりの資金が必要となる。

ここでは、ゴルフの普及と将来性ある選手の発掘・育成と、ナショナルチームメンバーやオリンピック強化指定選手の強化に必要な施策について提案することとする。

なお、本提案は、日本ゴルフサミット会議で議論するために作った「たたき台」であって、日本ゴルフ協会の中で実行計画に乗っているものではない。

ジュニア普及、有望選手の発掘育成、強化 年間予算 5 億円

- ・ 小中学生へのゴルフの普及、ゴルフを通じての青少年の教育を目的としたジュニアスクールの拠点を全国に設置する。
- ・ 小中学生の中から、将来日本代表選手として活躍が期待できる選手を地区連盟ごとに選抜し、地区連盟強化指定選手に指定する。全国で 200 名を目標とする。
- ・ ナショナルコーチによる教育を受けたアシスタントコーチや PGA/LPGA のティーチングプロによる専門コーチ陣を組織し、地区連盟強化指定選手の強化を行う。
- ・ 地区連盟強化指定選手は、将来のナショナルチーム入りを目指し、年間 100 日にわたる強化合宿に参加し、JGA 専任コーチの指導による JGA 強化プログラムを実践する。
- ・ 海外の環境(芝やコースの状態を含む)に慣れるために、海外アカデミーへ留学させる。
- ・ 傷病時は、選手の個人データを東京の国立スポーツ科学センターと共有し、診断やリハビリ体制を整える。

ナショナルチームメンバー、オリンピック強化指定選手の強化 年間予算 5 億円

- ・ 世界的に実績のあるコーチをナショナルコーチとして迎え、世界水準の選手強化プログラムを構築するとともに、指導スタッフの充実を図るため、指導者の育成も行う。
- ・ 競技別強化拠点である宮崎シーガイアリゾートに、最新機器とアナリストを配置し、最適な練習環境を整える。
- ・ ナショナルチームメンバーは、宮崎の強化拠点の近く、または味の素ナショナルトレーニングセンター(東京都・北区)に長期滞在し(年間 300 日を目標)、強化プログラムに基づくトレーニングを行う。また、学業についても疎かにすることなく、他の児童・生徒と同様に地元の学校に通学する。
- ・ 海外の環境(芝やコースの状態を含む)に慣れるために、海外アカデミーへ留学させる。
- ・ 傷病時は、選手の個人データを東京の国立スポーツ科学センターと共有し、診断やリハビリ体制を整える。

世界水準の強化プログラム構築に向けては、JGA、プロ各団体、地区連盟、県連盟、学連、高ゴ連、練習場連盟、ゴルフ場などすべての組織が連携していくことが最も大事なことであり、日本ゴルフ界としての課題である。

資金調達については、ゴルファーの寄付金や企業の協賛金を検討する。

以上